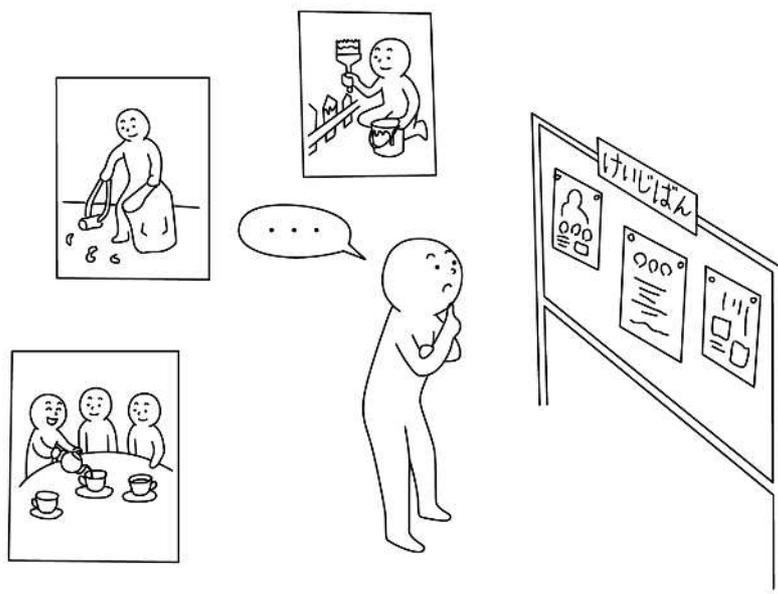


みんなはどう思ってるんだろう…



地域の福祉を 調べる



地域の福祉を調べる

Chapter

2

- 1 第6回川崎市地域福祉実態調査結果
- 2 第6期幸区地域福祉計画を振り返る
- 3 第7期幸区地域福祉計画推進の視点

1 第6回川崎市地域福祉実態調査結果

(1) 第6回川崎市地域福祉実態調査

地域福祉に関するニーズを把握し、本市における地域福祉の向上に資する第7期地域福祉計画策定に向けた基礎資料とすることを目的に、令和4(2022)年度に「地域福祉実態調査」を実施しました。調査の主な結果は次のとおりです。

【幸区での実施状況】

対象者 市内在住の18歳以上の男女(外国人を含む)各区1,000人
抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
調査方法 郵送配布・郵送回収
調査時期 令和4(2022)年11月~12月
有効回収数 363人(36.3%)



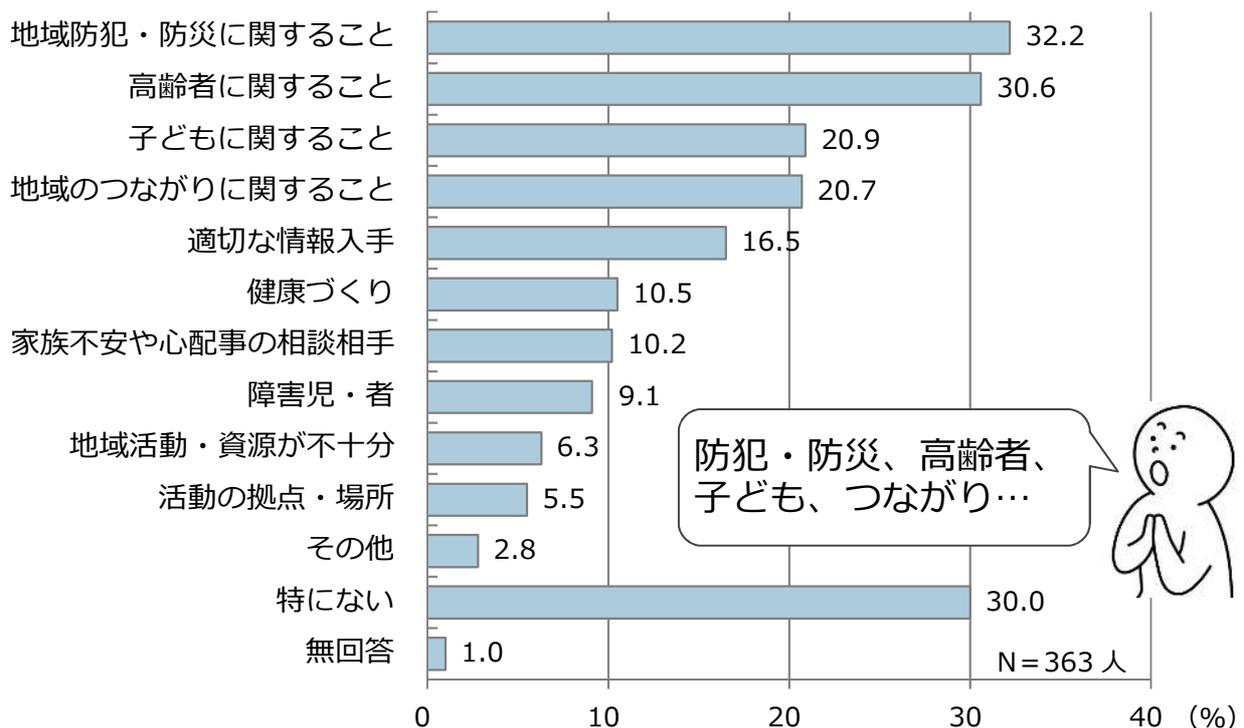
地域福祉実態調査結果

(2) 主な調査結果

■ 地域のこと

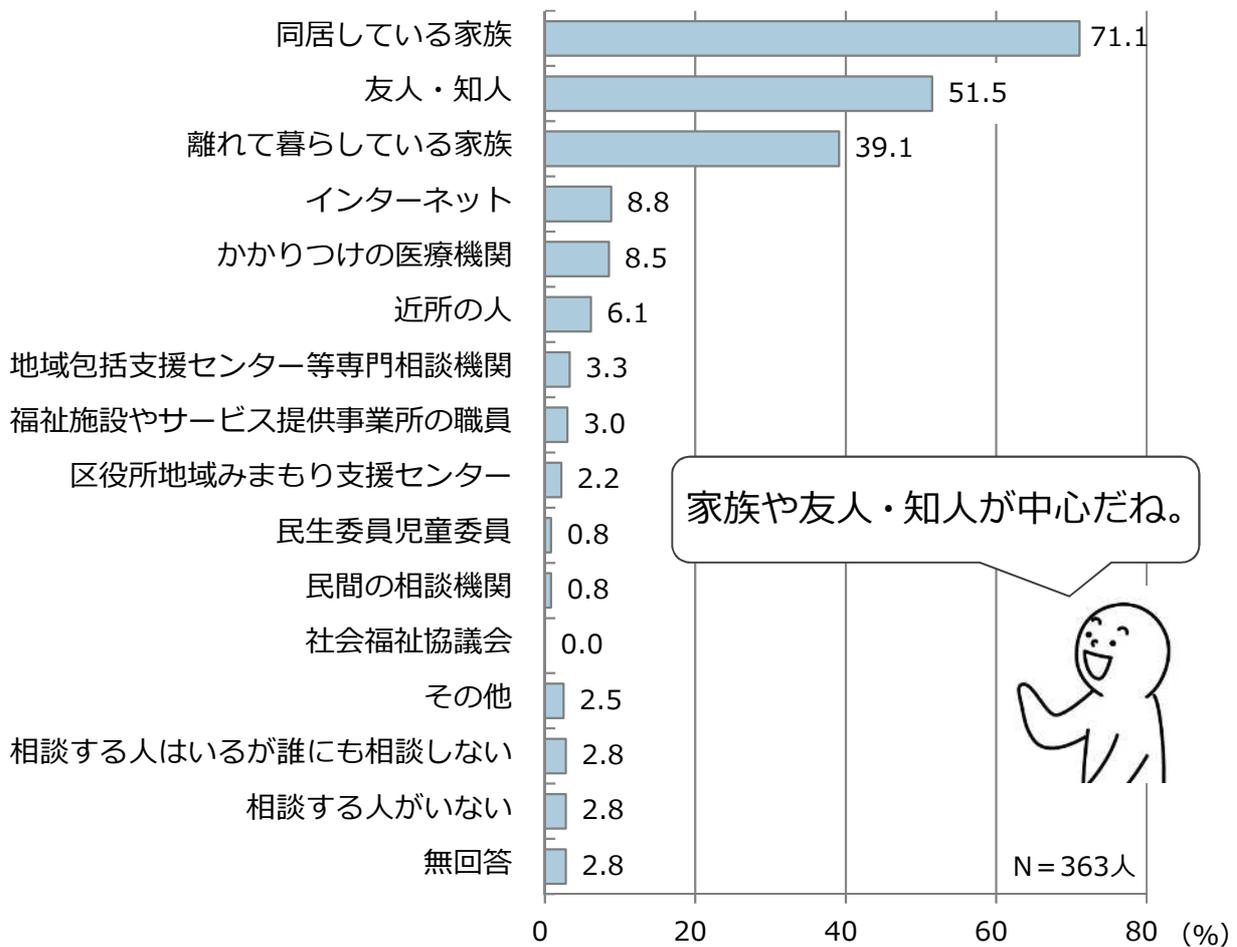
Q1 地域で問題になっていることってどんなこと?

地域において今何が問題だと感じていますか(複数回答)



Q2 生活での心配ごとや悩みごとを相談する人は誰？

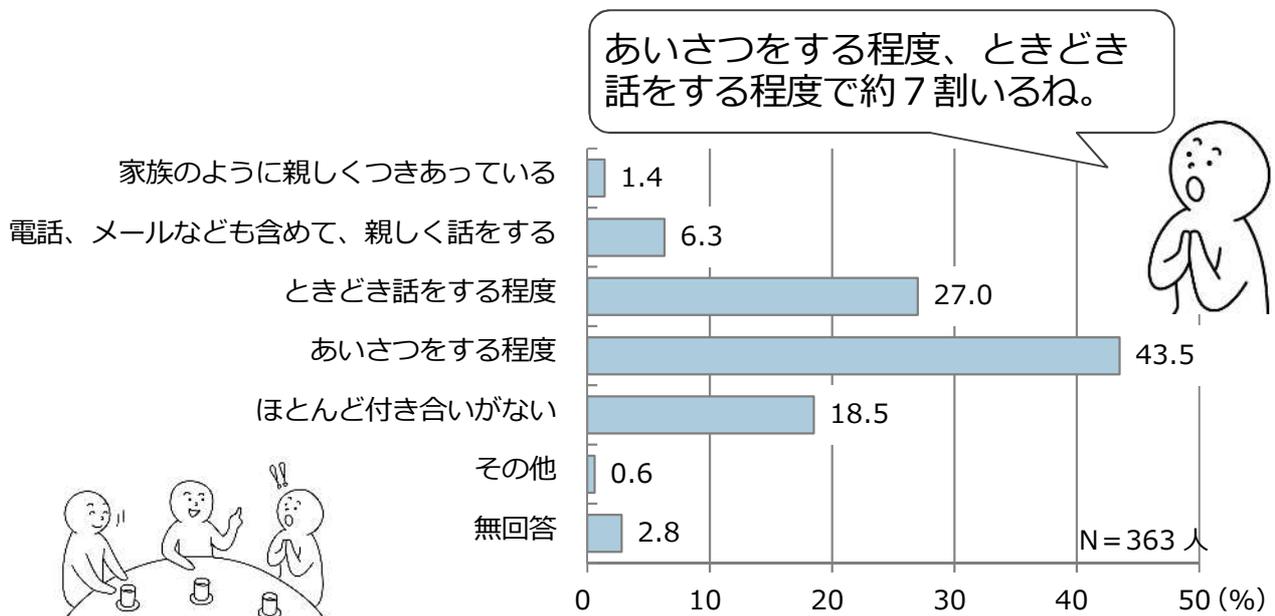
日常生活で心配ごとや悩みごとがある時誰に相談していますか（複数回答）



地域の福祉を調べる

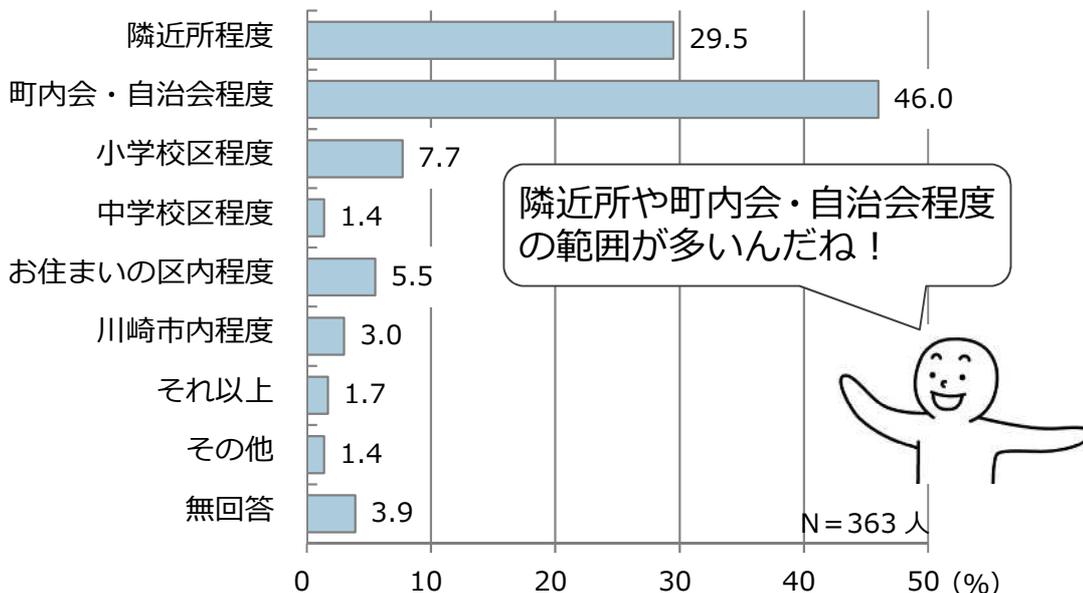
Q3 ご近所の方とは、普段どの程度のお付き合い？

普段ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか



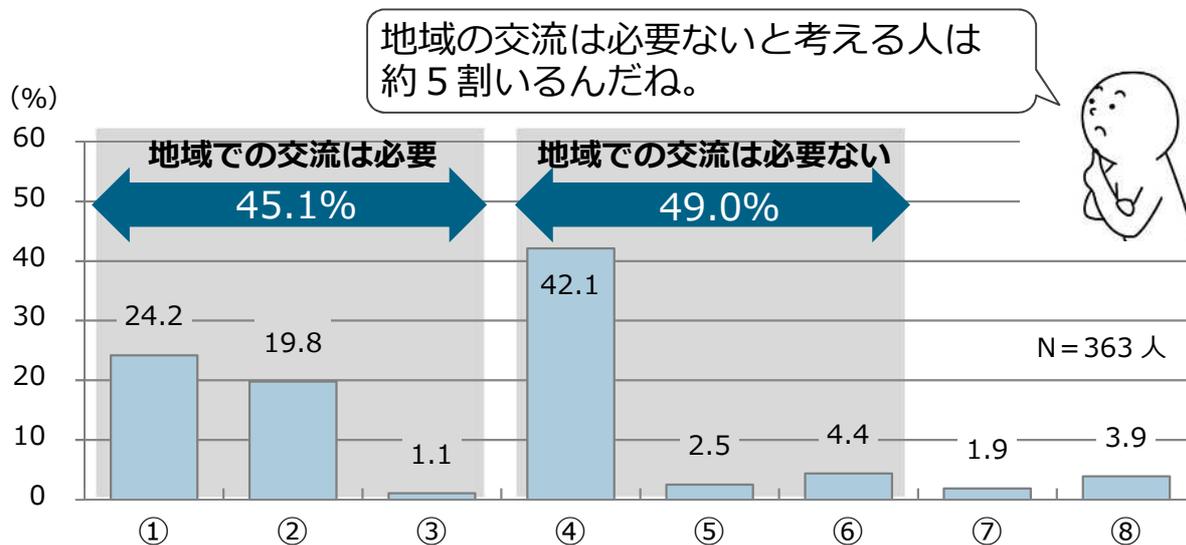
Q 4 助け合いができる地域ってどれくらい？

助け合いができる「地域」の範囲をどの程度だと考えますか



Q 5 近所や地域住民同士の交流についてどう思っている？

近所付き合いや地域住民同士の交流についてどの程度必要とお考えですか

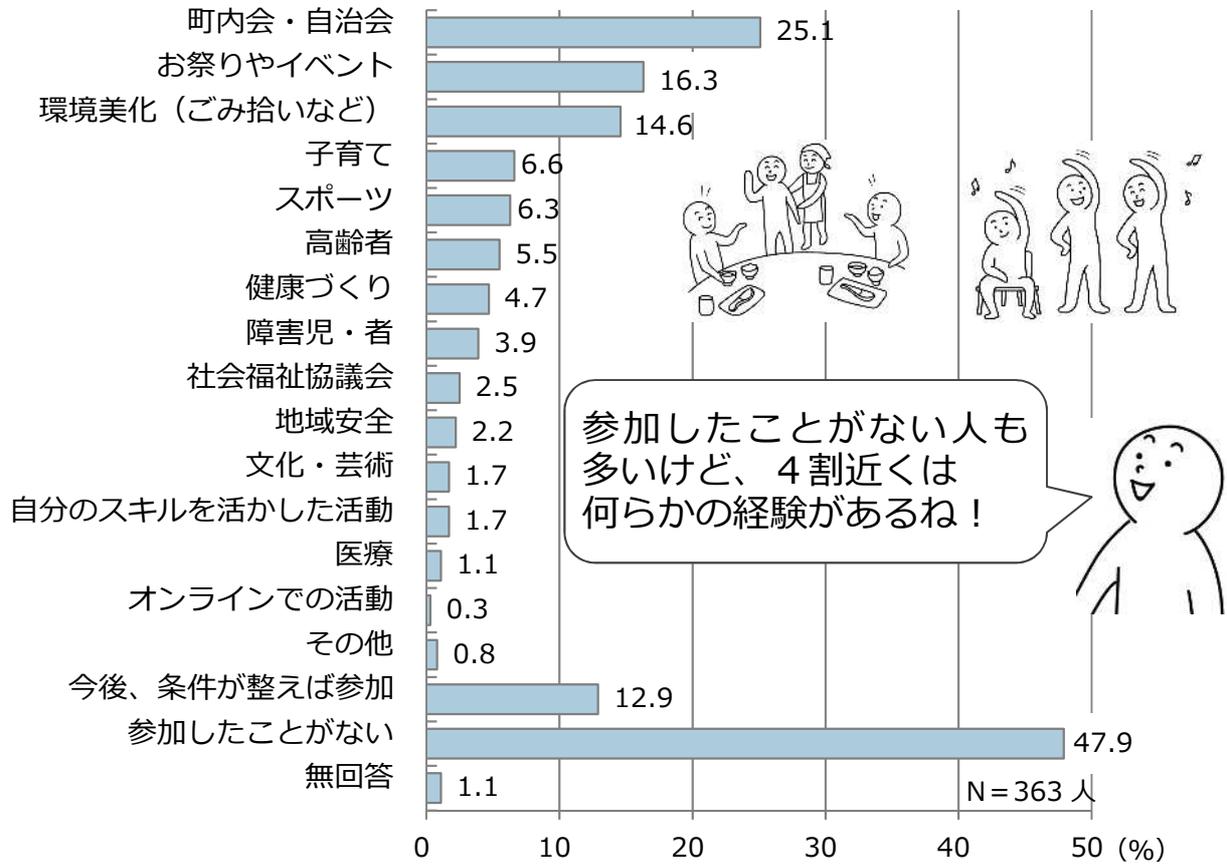


- ① 地域で助け合うことは大切であり、そのためにも普段からの交流は必要だ
- ② いざという時には助け合いたいので、多少面倒でも普段から交流しておいた方が良い
- ③ 地域での助け合いは必要と思わないが、地域で交流すること自体は大切
- ④ 困った時は当然助け合うべきだが、日頃の交流は面倒なのであまりしたくない
- ⑤ 地域との交流より、気のあった仲間やグループで交流し、その中で助け合えば良い
- ⑥ 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日頃からの交流は必要ない
- ⑦ その他
- ⑧ 無回答

地域で活動に参加すること

Q 6 地域活動やボランティア活動への参加経験は？

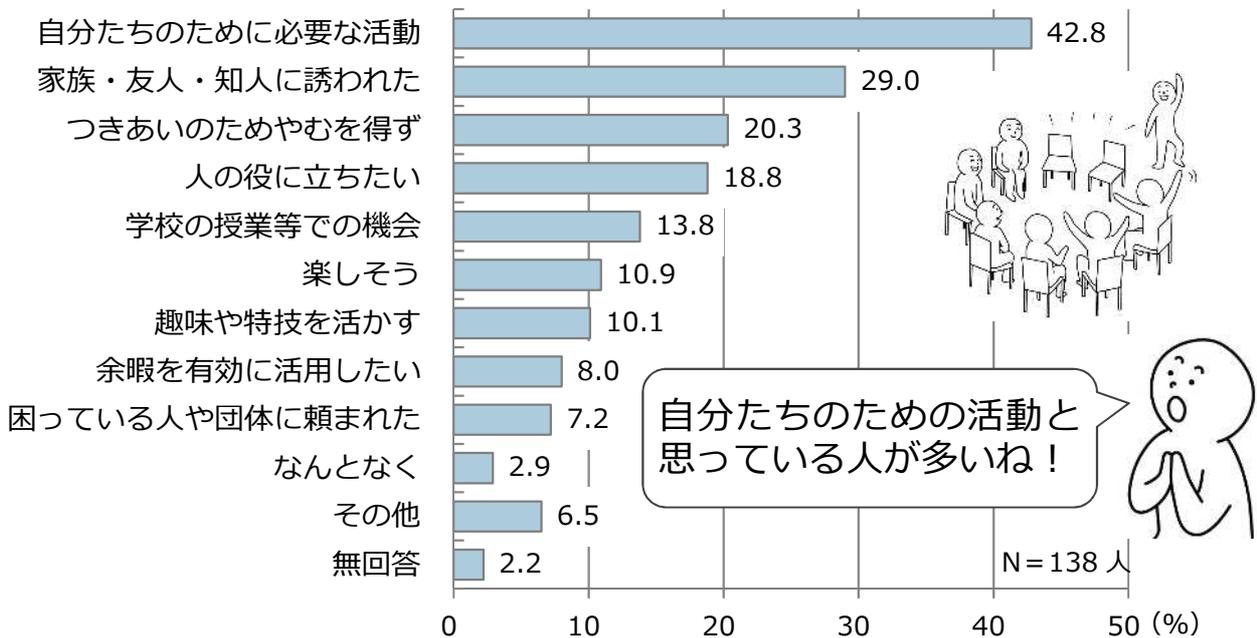
地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか（複数回答）



地域の福祉を調べる

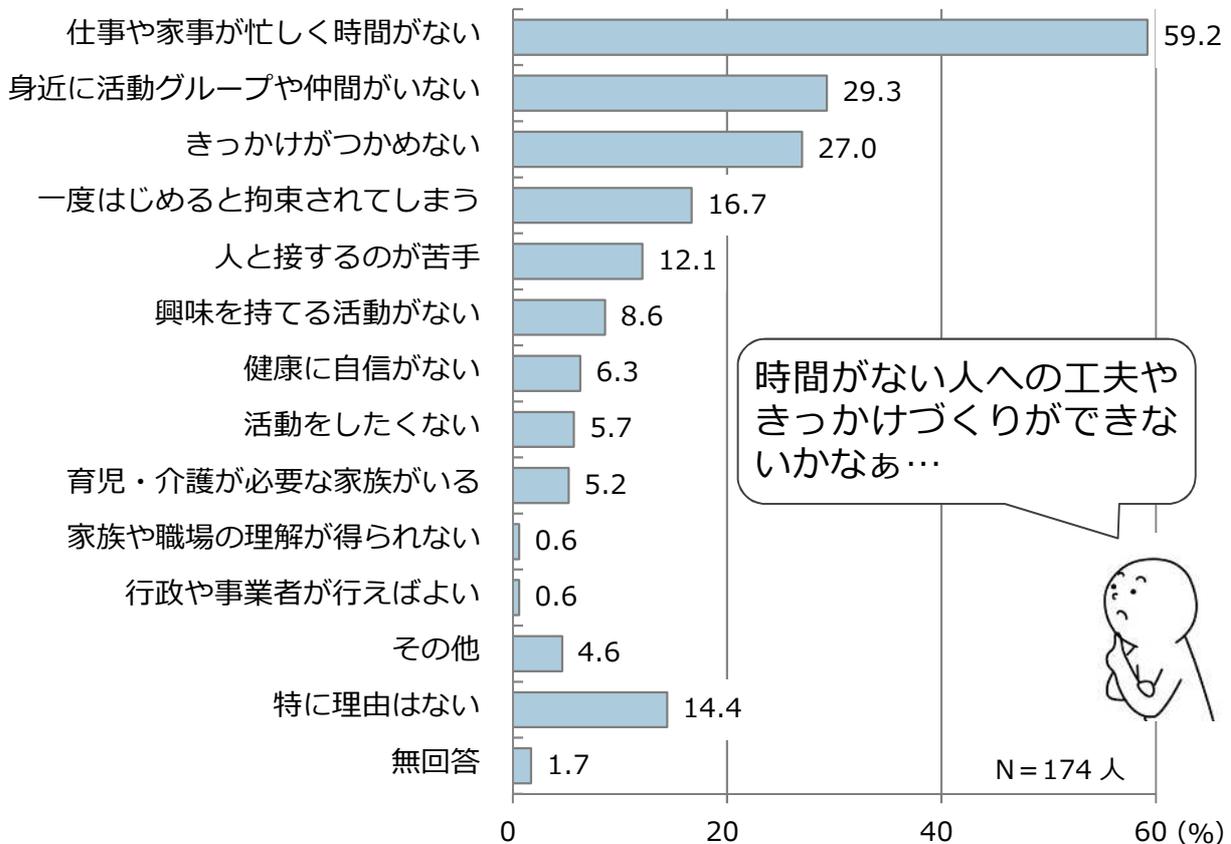
Q 7 地域活動やボランティア活動への参加する動機ってどんなこと？

地域活動やボランティア活動に参加した動機やきっかけはなんですか（複数回答）



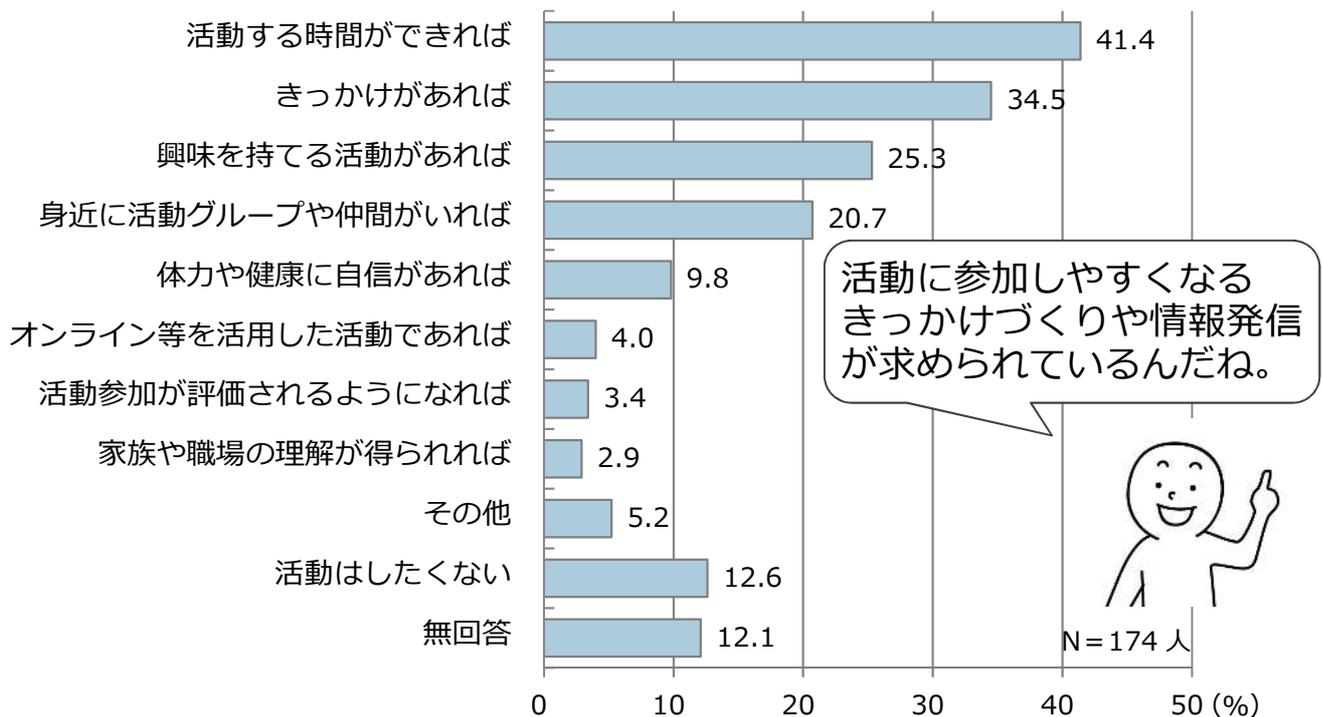
Q8 なぜ参加しない・できないのだろうか？

地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由はなんですか（複数回答）



Q9 どのような状況になれば参加したいと思うのだろうか？

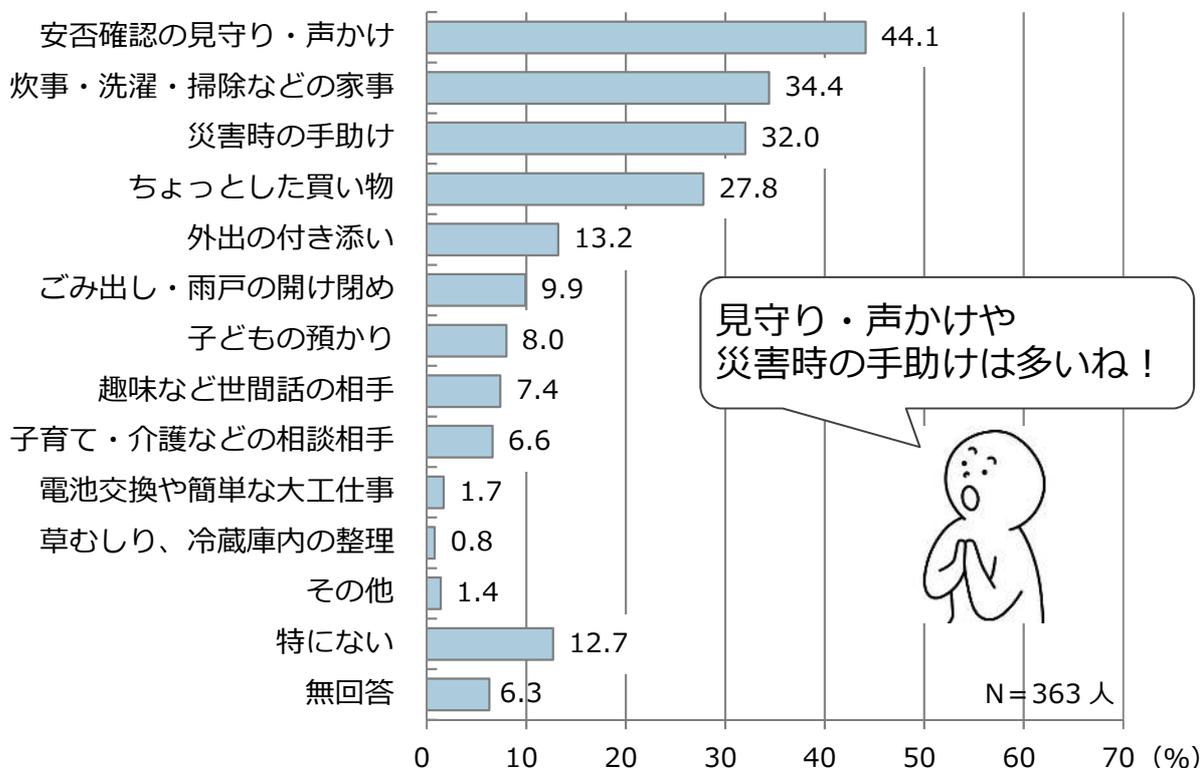
どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか



いつまでも安心して暮らすために

Q10 どんな手助けを地域の人に求めたい？

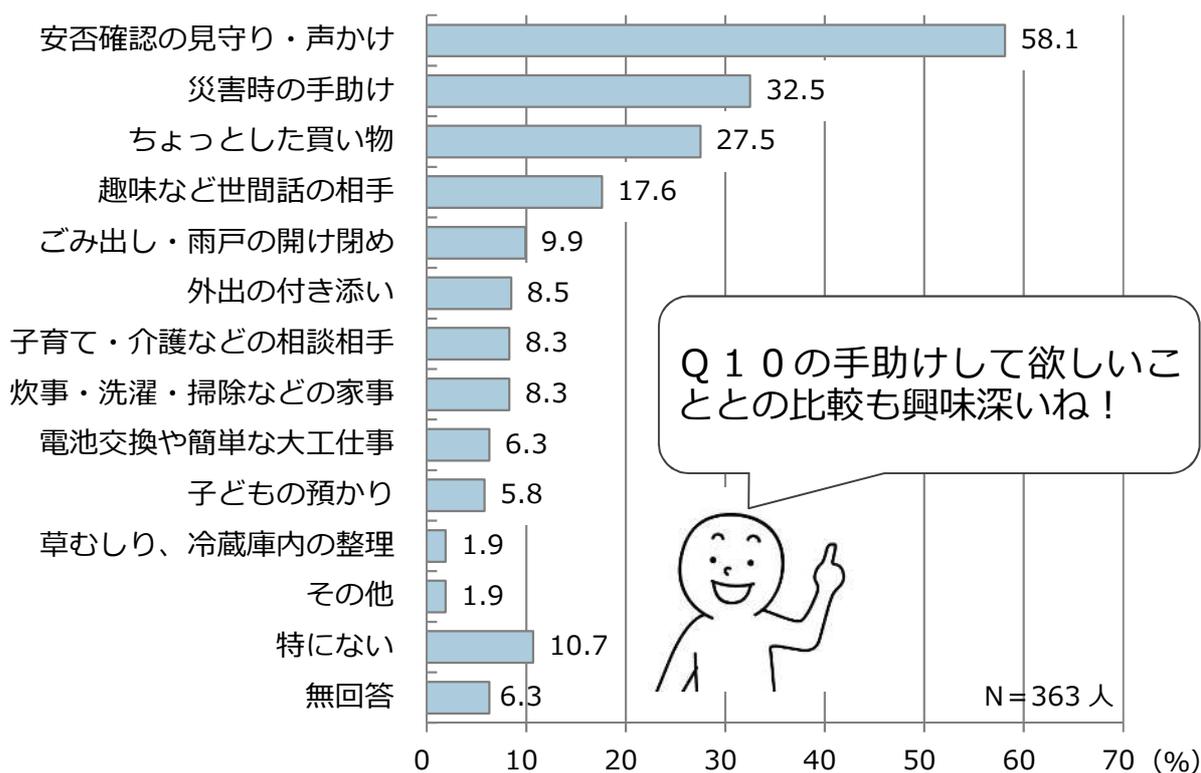
日常生活が不自由になった時どんな手助けをして欲しいですか（3つまで）



地域の福祉を調べる

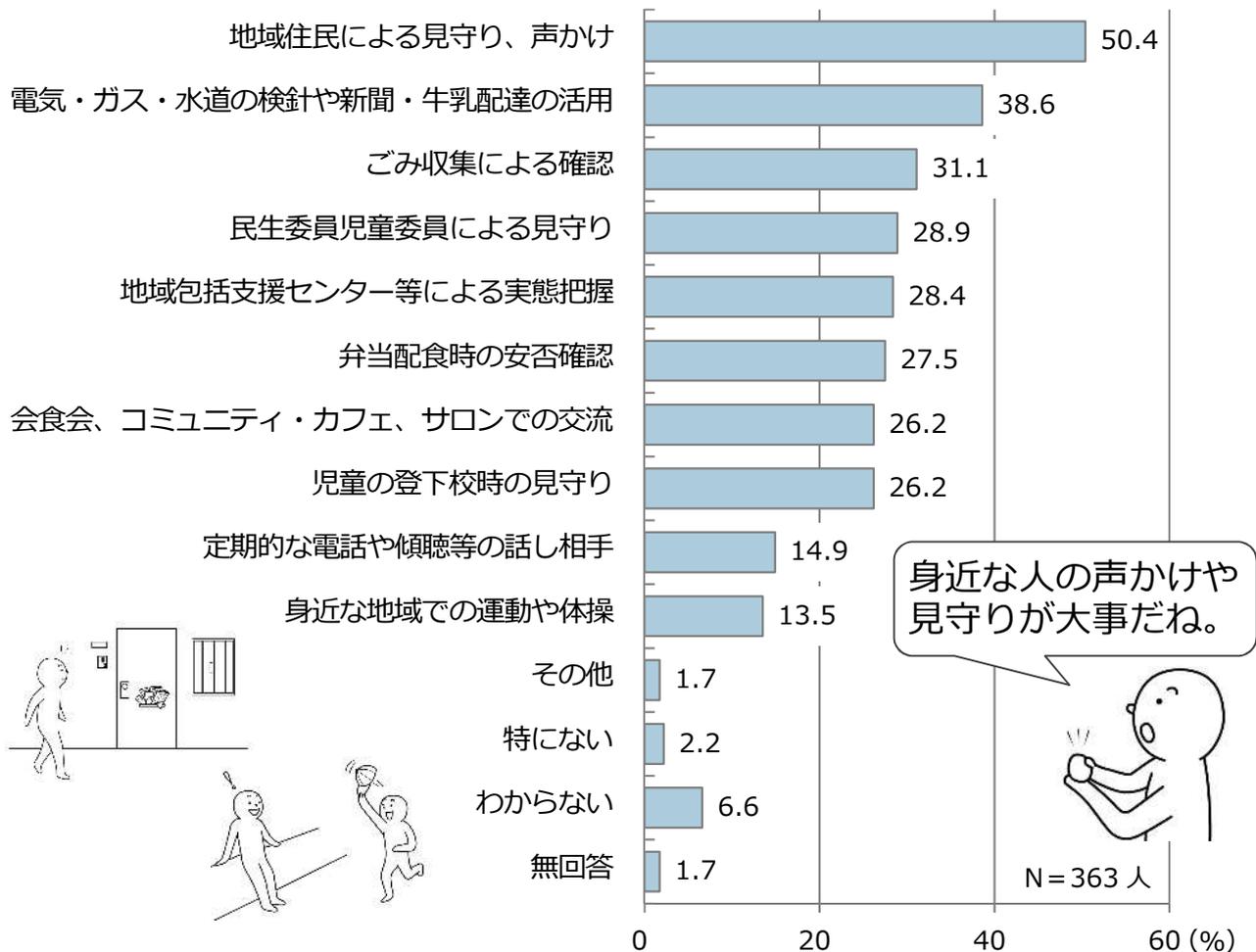
Q11 自分ができることってどんなこと？

地域で安心して暮らすために、自分ができることはなんですか（3つまで）



Q 1 2 どうしたら社会的不安や孤独・孤立に対応できるだろう？

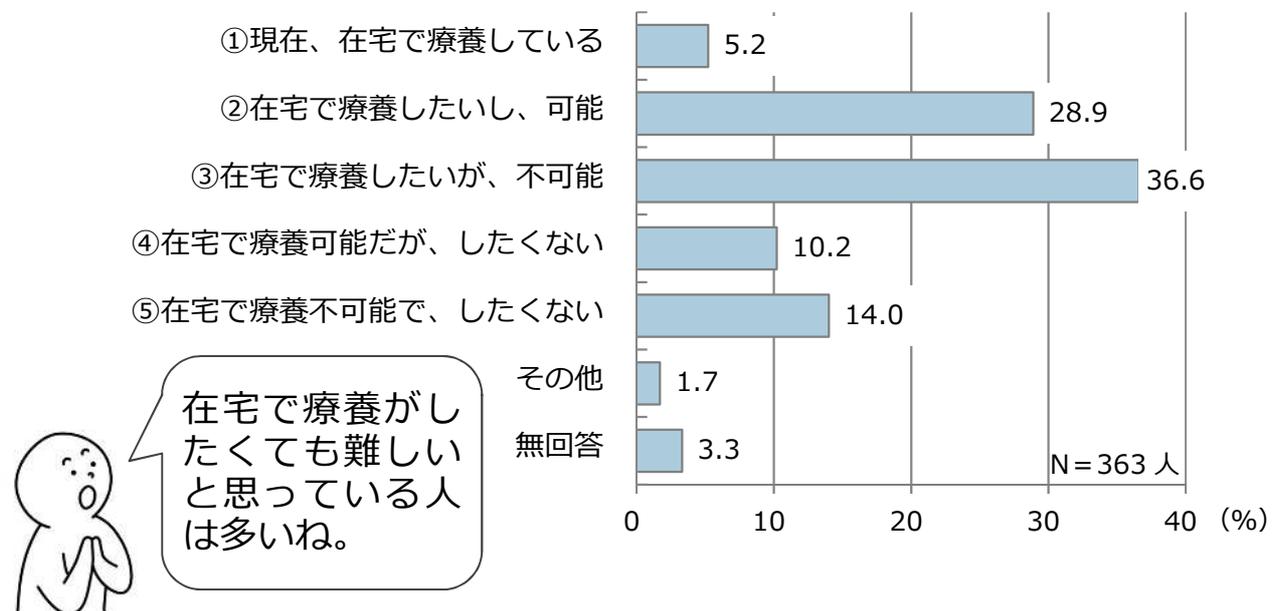
社会的不安や孤独・孤立に対して、どのような取組が有効だと思いますか（5つまで）



地域の福祉を調べる

Q 1 3 療養生活を在宅で過ごすことについてどう思う？

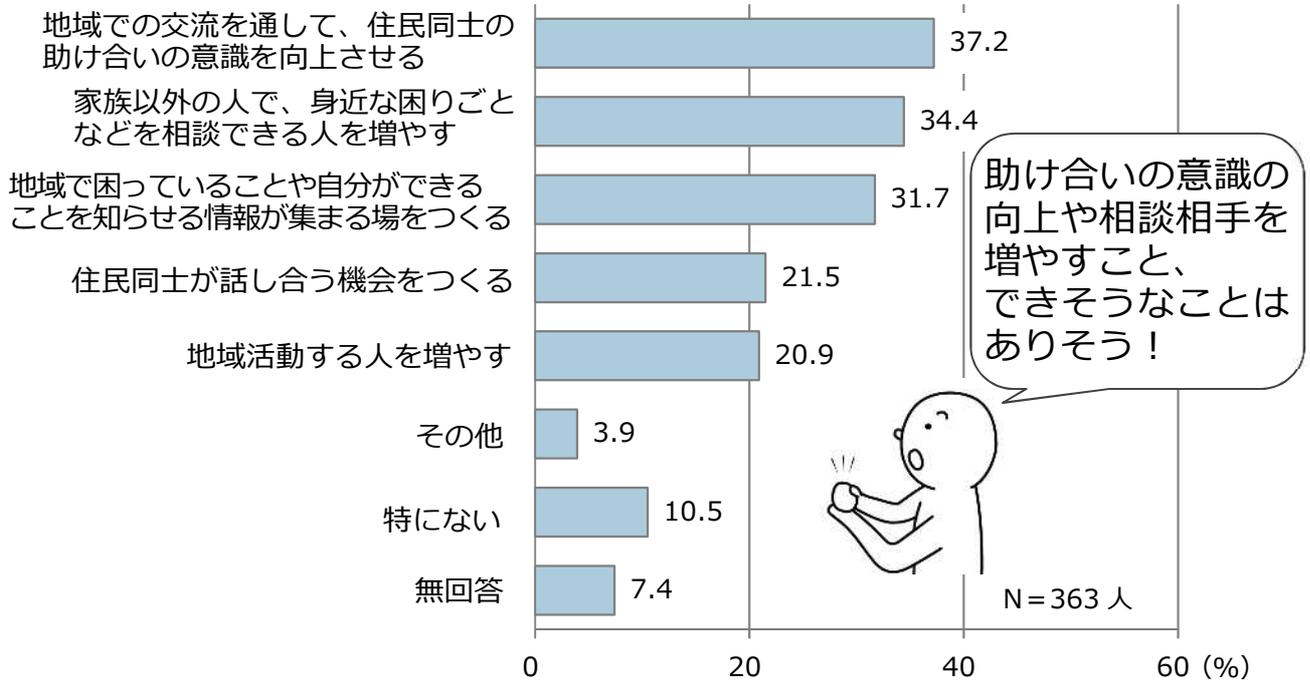
長期の医療や介護が必要となった場合、入院せず在宅で療養することは可能ですか



■ 地域福祉の推進に向けて

Q14 市民が取り組むべきことってどんなこと？

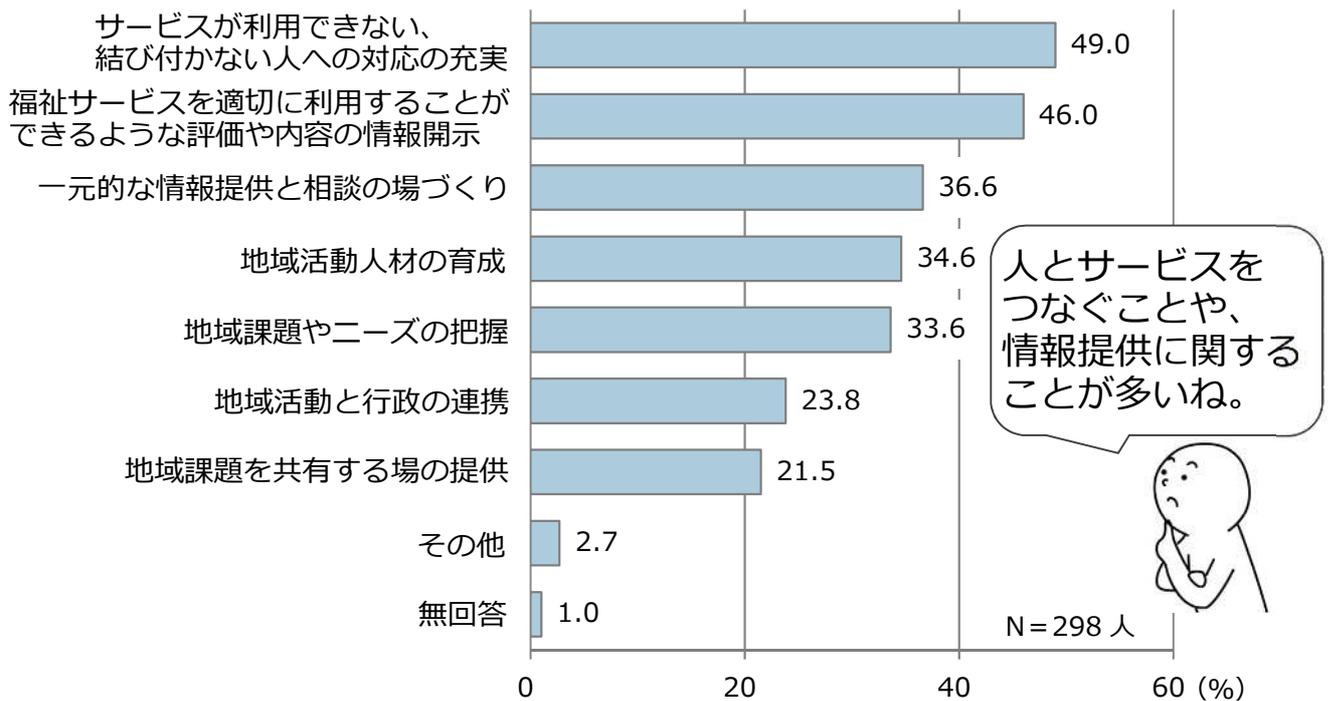
地域福祉を進めるために、市民が取り組むべき重要なことはなんですか（複数回答）



地域の福祉を調べる

Q15 行政が取り組むべきことってどんなこと？

地域福祉を進めるために、行政が取り組むべき重要なことはなんですか（複数回答）



2 第6期幸区地域福祉計画を振り返る

第7期幸区地域福祉計画の策定に向けて、令和5（2023）年度第1回幸区地域福祉計画推進会議において、第6期計画の取組状況や達成状況について振り返りながら、委員同士の意見交換を行いました。

第6期幸区地域福祉計画

（令和3年度～令和5年度）

計画の理念

夢がひろがり、想いがつながり、心が届くまちさいわい

基本目標1 一人ひとりに【ひろがる】

- 基本方針1-1 わがまちや地域包括ケアのことを知る
- 基本方針1-2 生涯を通じた健康づくりを進める
- 基本方針1-3 地域活動の担い手を広げる

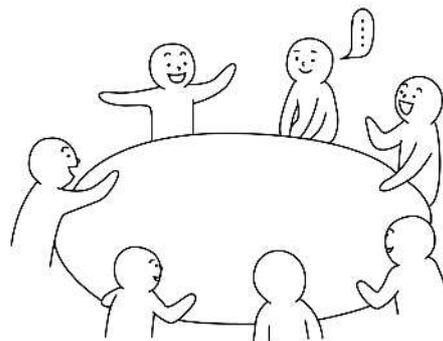
基本目標2 地域で【つながる】

- 基本方針2-1 多様な地域活動からつながる
- 基本方針2-2 多様なつながりから、新たな地域活動を育む
- 基本方針2-3 多様な人がともに住むことへの理解を深め、互いに見守り・支え合う

基本目標3 必要な時に【とどく】

- 基本方針3-1 支援が必要な方に、専門性の高い情報を的確に届ける
- 基本方針3-2 包括的な相談支援機能を充実する
- 基本方針3-3 防犯・防災のまちづくりを進める

基本目標4 【すすめる】



取組結果

基本目標 1 一人ひとりに【ひろがる】(自助)

「地域包括ケアへの理解と参加の広がりによる区民主役の地域づくり」を目指して、多種多様な情報を広報誌、SNS等を活用しながら周知し、ライフステージに沿った健康づくりに取り組み、地域をより暮らしやすくしていくための地域活動に参加をするきっかけづくりを行いました。

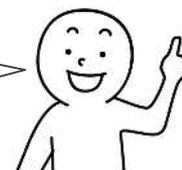
YouTubeやInstagramで若い人に向けて情報を発信しているんだね。



基本目標 2 地域で【つながる】(互助)

「人と地域のつながりが活発で、見守り、支え合うことのできる地域づくり」を目指して、アフターコロナを見据え、対面による人と人とのつながり、人と地域活動がつながるために、地域に根ざした様々な活動を行い、地域とつながるきっかけづくりを行いました。また、地域に住む多様な人への理解を深めるため、お互いを知る機会を提供することで、お互いに見守り、支え合う関係作りを行いました。

幸区オリジナル盆踊り「幸わいわい音頭」を作ったりして、つながるきっかけにしたんだね。



基本目標 3 必要な時に【とどく】(共助・公助)

「総合的な体制で必要な相談・支援が届く仕組みづくり」を目指して、多様なニーズ、日々の暮らしの困りごとなどを相談する機会の充実を図り、日頃からのパトロールや災害に備えて、地域住民、企業、関係団体と連携した訓練の実施など、安心安全に暮らすことができるよう取組を行いました。

いざという時に備えて避難所で訓練を実施しているんだね。

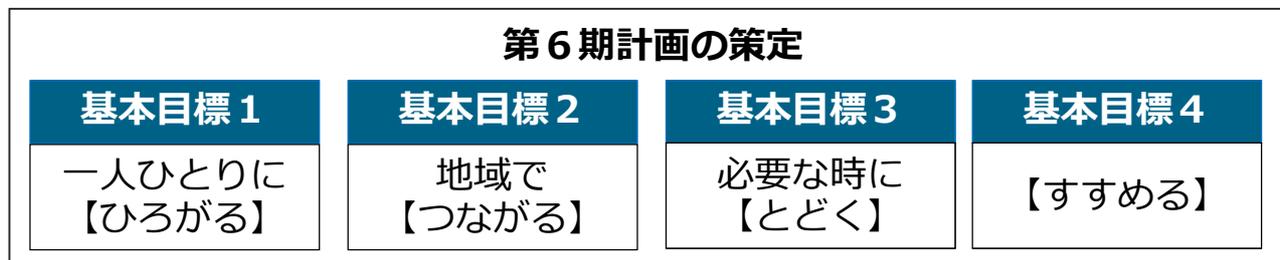


基本目標 4 【すすめる】

「地域福祉を進める基盤体制の確立とネットワークづくり」を目指して、各種会議体で事業の進捗状況、多職種が一体となった課題の共有を行い、地域福祉計画を推進する体制を確立しました。

3 第7期幸区地域福祉計画推進の視点

統計データ、調査結果、第6期計画の振り返りに加え、地域包括ケアシステム構築に向けて検討すべき要素を加えることによって、第7期計画を推進する視点をまとめました。



統計データ・調査結果・第6期計画の振り返り

第7期計画策定に向けた課題

- ① 地域包括ケアシステム構築に向けた意識を広げ、健康寿命延伸やボランティアなどによる地域活動の担い手づくりの取組を進めることで、より多くの人が様々な形で地域活動に参加する機会を広げる必要がある。
- ② 新型コロナウイルスの影響により休止した活動の再開など各種地域活動を活発にすることで、多様な人や活動がつながり、お互いに地域で見守り支え合うことができる地域づくりを進めていく必要がある。
- ③ 子どもから高齢者まで、また、本人や家族を含めて、福祉サービスや災害時における個別支援の充実を図るために、必要な相談や支援が届く体制づくりを充実させていく必要がある。

第7期計画への反映（基本目標）

ケアの意識を広げ
参加が広がる地域

地域のつながりから
見守り、支え合う

総合的な体制で
相談・支援が届く

地域福祉の充実を
推進する体制

関連する取組をさらに充実させるため、
第7期計画の基本目標として反映させます。